

資料 6

名護市総合交通ターミナル整備基本計画の概要

「名護市総合交通ターミナル整備基本計画」とは

- 令和5年3月に策定した「名護市総合交通ターミナル整備基本計画」は、名護湾沿岸基本構想・基本計画、名護漁港周辺エリアにおける「交通結節点と集客施設の整備」の位置づけを踏まえ、交通環境を取り巻く現況及び課題、関連動向等を整理し、整備の必要性和方向性を明らかにした上で、総合交通ターミナルを核としたまちづくりのあり方を示すことを目的としたもの。

計画の位置づけ

本市では、名護湾沿岸の魅力をいっそう高めることで、まちの賑わいを生み出し、市民の暮らしの魅力向上や滞在の促進、市街地の賑わい創出の起爆剤とすることを目指し、名護湾沿岸のまちづくりに取り組んでいます。

令和元年度には**名護湾沿岸基本構想**を策定し、名護湾沿岸の将来像を明らかにしました。

令和2年度に策定した**名護湾沿岸基本計画**では、「21世紀の森公園周辺エリア」、「名護漁港周辺エリア」の2つのエリアについて、エリア別のコンセプトや整備イメージ、ロードマップ等を明らかにしました。

令和3年度には、「**名護漁港周辺エリア**」について、基本計画で示した整備イメージを実現するため、まちづくりの計画を具体化し、中核となる取り組みとして「**交通結節点と集客施設の整備**」を位置づけました。

計画の目的

これらの上位計画と検討経緯を踏まえ、本計画は、「名護市総合交通ターミナル」の整備に向けて、交通環境を取り巻く現況及び課題、関連動向等を整理し、整備の必要性和方向性を明らかにした上で、**総合交通ターミナルを核としたまちづくりのあり方を示す**ことを目的とします。

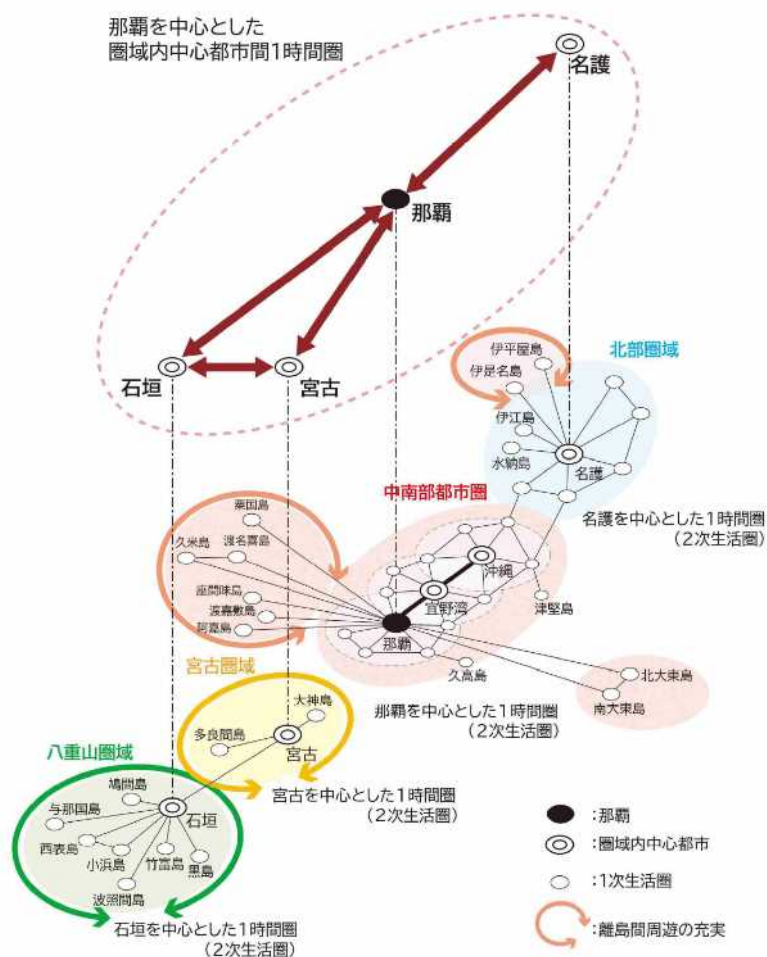
名護市総合交通ターミナル整備基本計画

令和5年3月
名護市

1. 広域的な位置づけ

- 「沖縄県総合交通体系基本計画」では、沖縄県の県土全体において広域交流拠点を有する那覇と2次生活圏の圏域中心都市（名護、宮古、石垣）との移動時間を1時間とする圏域構造を構築するとされている。
- 「幹線バス路線網のあり方に関する提言書」にて、名護市では観光対応型路線の導入とサービス拡充を位置付けている。

県土の圏域構成



出典：「沖縄県総合交通体系基本計画」（沖縄県 令和4年10月）

幹線バスの路線網イメージ案



出典：「幹線バス路線網のあり方に関する提言書」

（幹線バス路線網のあり方検討会：内閣府沖縄総合事務局 令和4年3月）

2. 総合交通ターミナル整備に係る現状・課題

- ・名護市では自動車依存率が70～80%だが公共交通でカバーされない地域がある。名護バスターミナルや名護十字路バス停の立地や乗り換え環境は見直しが必要であり、多様なモビリティサービスを活用した交通結節機能の整備が求められる。
- ・名護市の観光入り込み客数は増加率が低く、ランドマークや魅力づくり、北部の観光地との公共交通での連携が必要である。

	現状	課題
公共交通	・沖縄県では沖縄鉄軌道計画検討委員会の検討結果を踏まえ、鉄軌道の導入が検討されている。 ・県全体で観光MaaSや新たなモビリティサービスの展開が進んでいる。 ・名護市内において、公共交通人口カバー率が低い地域、高齢者用の通院の足を確保するバスがない地域、送迎バス・スクールバス等と重複している区間が存在している。 ・市内のバス停は、利用数の多い名護バスターミナルと名護十字路は離れており、名護十字路周辺のバス停は点在している。 ・名護バスターミナルには一般車の乗降場がない。 ・補助路線の輸送人員は減少傾向、補助金の交付額および市の負担額は年々増加している。 ・生活交通の交通手段は、自家用車が概ね 70%～80%を占める。 ・ビッグデータによると、イオン名護と比べて名護十字路周辺の方が滞在時間が短く、来街者の割合が少ない。	・那覇と名護を繋ぎ、市内の交通手段の充実や沖縄北部との中継地点機能の充実を図るための、多様なモビリティサービスを活用した交通結節機能の整備が必要である。 ・名護市の中心市街地から離れた既存バスターミナルの立地や乗換環境などの見直しが必要である。 ・公共交通人口カバー率やルートの重複区間を踏まえ、バスのルートをも市民のニーズにあった効率的なルートに見直す必要がある。 ・まちづくりにおいては、滞在時間の延長と観光客の入込を増加させる仕組みづくりが必要である。
観光	・沖縄県の入込客数は増加しているが、名護市では増加率が低く、充分に取り込めていない。 ・沖縄県への観光客の利用交通機関について、60代以下の各年代の約7割がレンタカーを利用しているが、10代、70代は観光バスの利用が比較的多く、80代以上では一般タクシーやレンタカーの利用が比較的多い。 ・既存の海洋博公園は、コロナ前までは観光客数が増加傾向にあったことに加え、やんばる国立公園を含む地域がユネスコ世界自然遺産に登録され、嵐山ゴルフ場跡地に新たなテーマパークの整備も予定されており、観光客のさらなる増加が見込まれる。 ・名護市内の観光客の立ち寄り箇所は、西海岸側・美ら海水族館への動線上に偏在している。	・沖縄県に来る観光客を名護市に取り込むためのランドマークや魅力づくりが必要である。 ・若者の公共交通需要等、将来的な需要を見据えた交通機能の検討が必要である。 ・沖縄県北部の観光需要の増加を見据えた、北部の観光地との公共交通での連携等の検討が必要である。
防災	・名護漁港周辺は、津波・高潮による浸水が想定され、国道58号より海側の避難場所は、県営東江高層住宅しかない。 ・名護漁港周辺では、国道58号が第1次緊急輸送道路に指定され、県道71号線が第2次緊急輸送道路に指定されている。	・名護漁港周辺での台風や高潮をはじめとした災害時の避難場所整備が必要である。 ・名護漁港周辺の国道58号及び県道71号線は緊急輸送道路機能の確保が必要である。

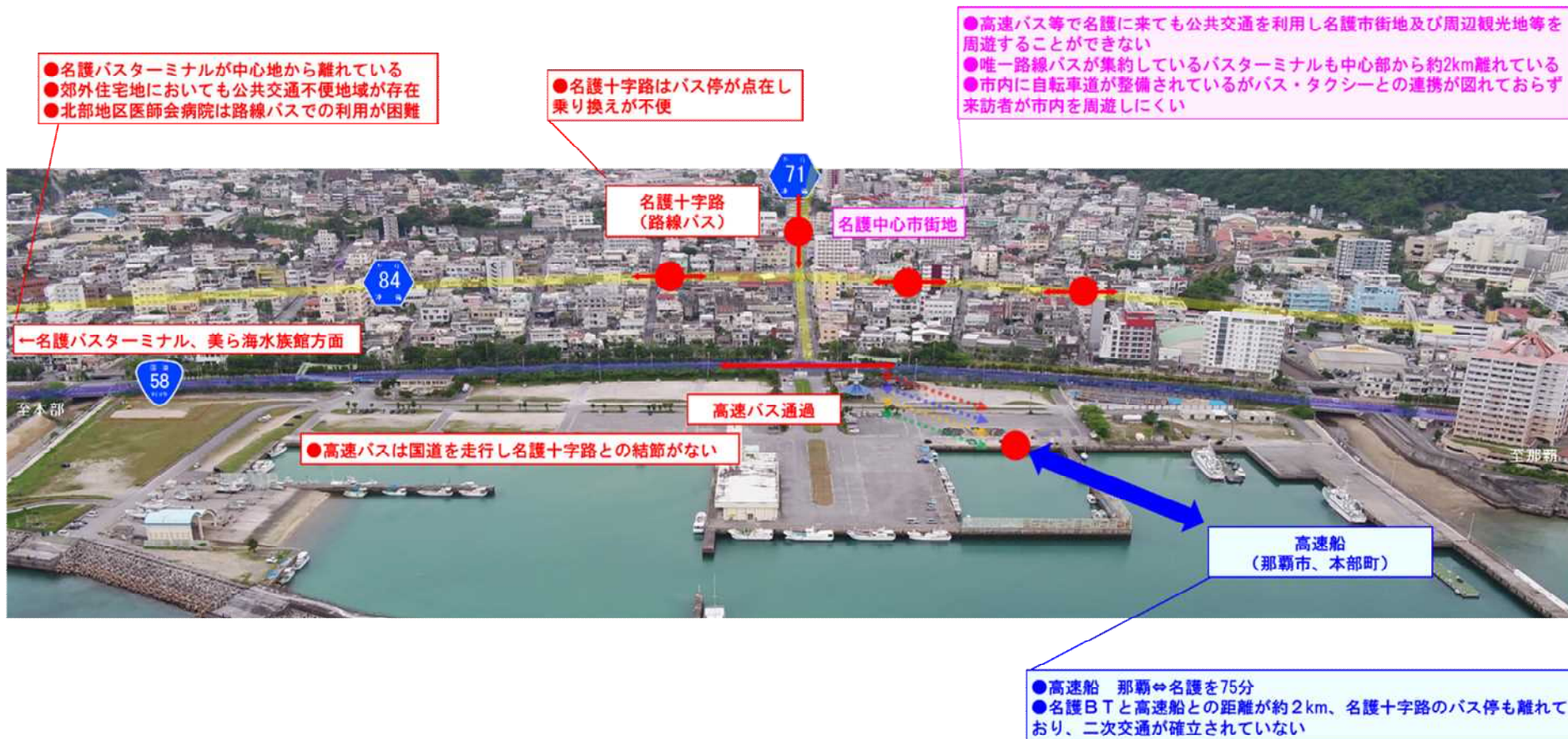
2. 総合交通ターミナル整備に係る現状・課題

- 公共交通、観光、防災の面からの総合交通ターミナル整備に係る現状・課題について、航空写真を用いて即地的に示した。



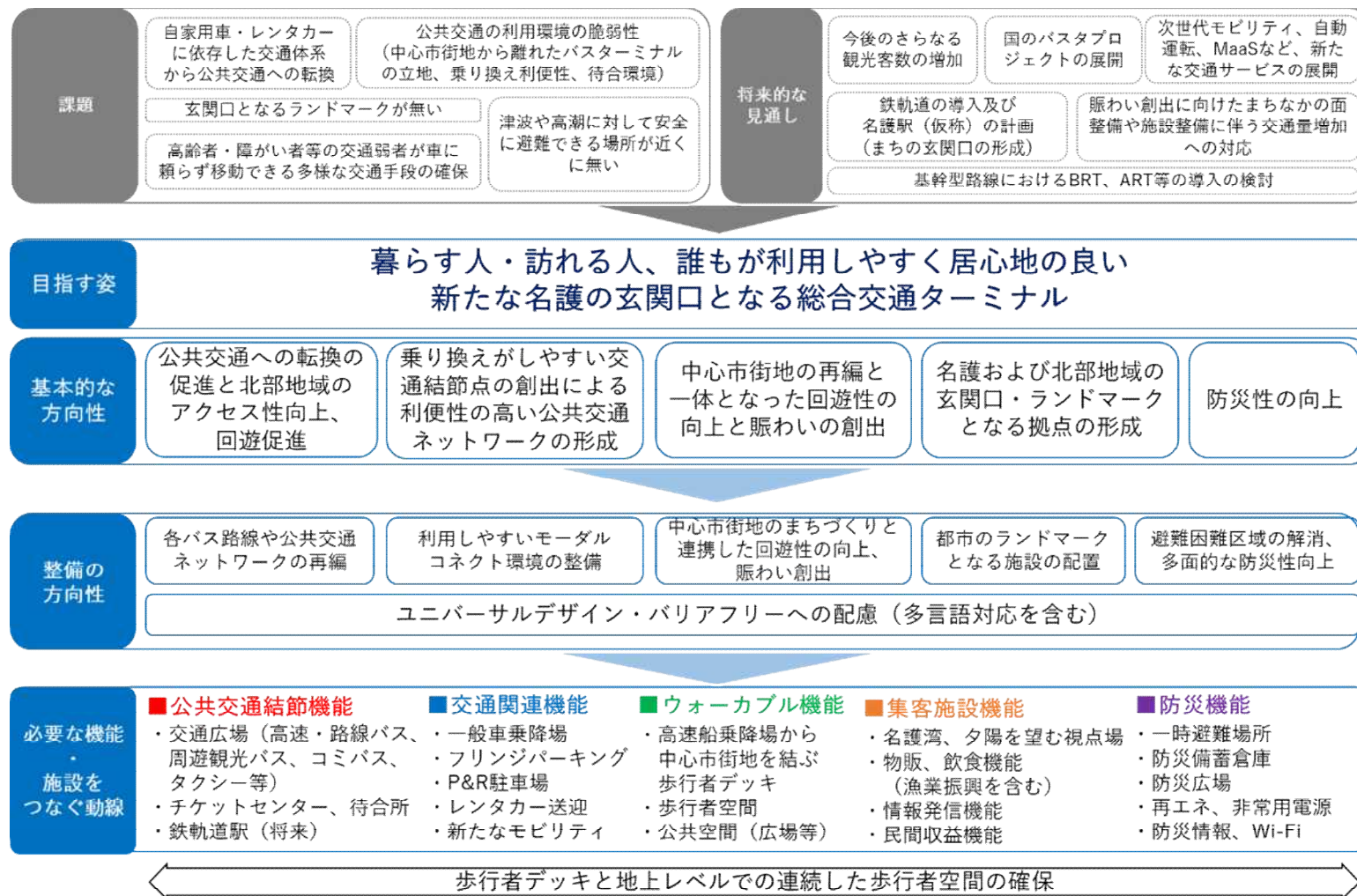
2. 総合交通ターミナル整備に係る現状・課題

- 公共交通、観光、防災の面からの総合交通ターミナル整備に係る現状・課題について、航空写真を用いて即地的に示した。



3. 総合交通ターミナルの整備の方向性

- 総合交通ターミナル整備に係る現況・課題を解決し、北部地域における拠点として相応しいまちづくりを進めていくため、「暮らす人・訪れる人、誰もが利用しやすく居心地の良い新たな名護の玄関口となる総合交通ターミナル」を目指す。
- 公共交通結節機能、交通関連機能、ウォカブル機能、集客施設機能、防災機能を確保する。



3. 総合交通ターミナルの建設場所の選定

- 総合交通ターミナルの建設場所の候補地として一定の条件を満たす6箇所の候補地を抽出し、比較検討した結果、人口や従業者数の分布状況を踏まえ、「交通結節点としての結節性」、「鉄軌道の導入」、「まちづくりとの連携」の3つの観点から、総合交通ターミナルの建設場所は名護漁港周辺が最も望ましいと判断した。

【総合交通ターミナルの建設場所の候補地としての条件】

【条件1】都市計画・公共交通との整合

- 用途地域内にあり、現行のバスルート沿い（または近接）にあるか？

【条件2】必要規模の確保

- 交通関連施設・集客施設の機能・規模が配置できる広さがあるか？
（現行バスターミナルの約1haを最低限としたまとまった土地。）

【条件3】用地確保の可能性

- 現状で公有地か、民有地の場合は直接買収方式や土地区画整理事業等により、必要な用地を確保できるか？



視点	候補地1 現行バスターミナル	候補地2 名護漁港周辺	候補地3 県立北部病院	候補地4 市庁舎・市民会館	候補地5 陸上競技場	候補地6 伊差川IC交差点付近
人口	1,952人	1,719人	1,676人	1,608人	1,062人	1,242人
従業者数	548人	1,715人	267人	528人	183人	61人
交通結節点としての結節性	○ 高速バス、路線バスは結節しているが、タクシー、一般車、高速船と結節しない。	◎ 高速バス、路線バス、高速船乗降場等が結節している。	× 一部の路線バスのみとなり、高速バス、高速船と結節しない。	○ 高速バス、路線バスが結節しているが、高速船と結節しない。	× 一部の路線バスのみとなり、高速バス、高速船と結節しない。	× 一部の路線バスのみとなり、高速バス、高速船と結節しない。
鉄軌道の導入	△ 前後区間を含めた線形の確保が困難。	○ 必要な規模の用地と線形が確保可能。	× 前後区間を含めた線形の確保が困難。	○ 必要な規模の用地と線形が確保可能。	× 前後区間を含めた鉄軌道の導入空間の確保が困難。	○ 必要な規模の用地と線形が確保可能。
まちづくりとの連携	△ 人口集積が高い一方、主に住宅地であり日中の活動中心ではない。周囲に観光資源や店舗等が少なく、まちづくりとの連携は難しい。	◎ 中心市街地に隣接し、人口集積が高い。周囲に観光資源や店舗等が多く、まちづくりとの連携がしやすい。	× 人口集積が高いが日中の活動中心ではない。周囲に観光資源や店舗等が少なく、まちづくりとの効果的な連携は難しい。	× 人口集積が高いが日中の活動中心ではない。周囲に観光資源や店舗等が少なく、まちづくりとの効果的な連携は難しい。	× 比較的人口集積が高いが日中の活動中心ではない。周囲に観光資源や店舗等が少なく、まちづくりとの効果的な連携は難しい。	× 比較的人口集積が低い。日中の活動中心ではない。周囲に観光資源や店舗等が少なく、まちづくりとの効果的な連携は難しい。
総合評価	△ ※ 現行バスターミナルとの機能分担が課題	◎ ※ 現行バスターミナルとの機能分担が課題	×	○ ※ 市庁舎・市民会館の更新との整合が課題	×	×

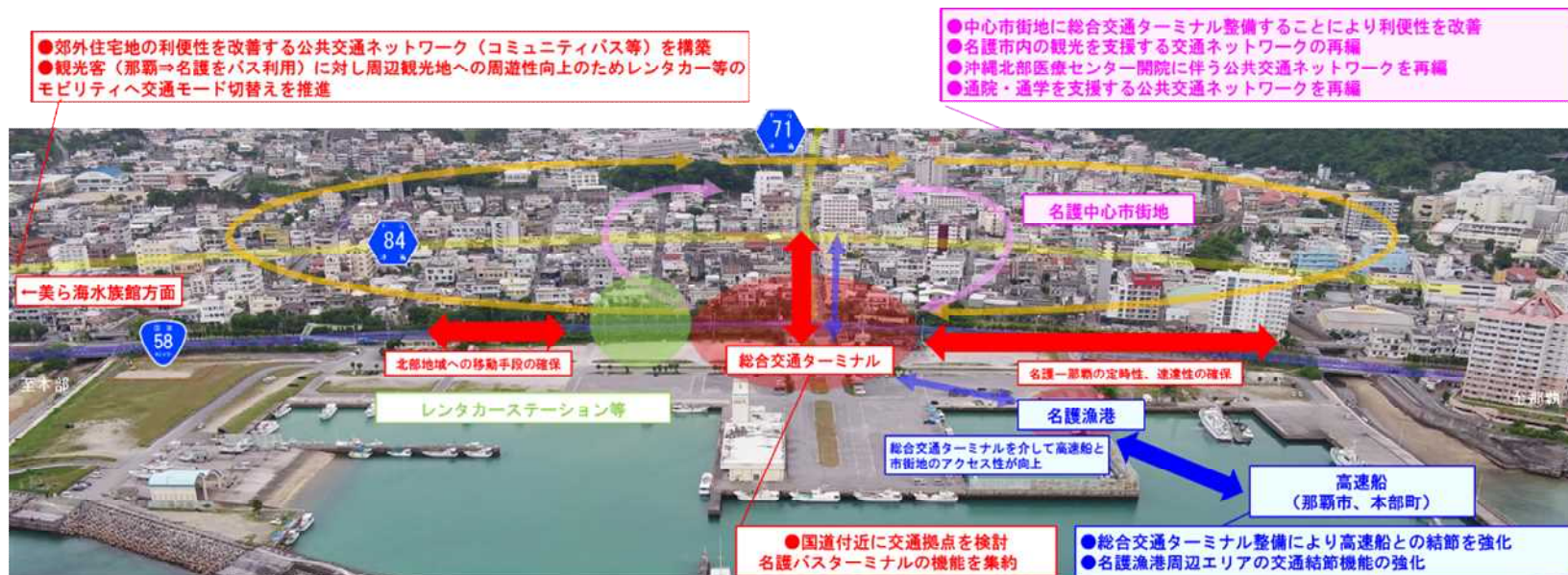
4. 総合交通ターミナルの整備の将来イメージ

- 総合交通ターミナルを整備した際の交通結節点及び交通ネットワークの将来イメージは以下の通り。



4. 総合交通ターミナルの整備の将来イメージ

- 総合交通ターミナルを整備した際の交通結節点及び交通ネットワークの将来イメージは以下の通り。



■ 公共交通結節機能

- 公共交通広場（高速バス、路線バス、周遊観光バス、コミバス、タクシー等）
- チケットセンター、待合所
- 高速船乗降場
- 鉄軌道駅（将来）

■ 交通関連機能

- 一般車乗降場
- フリッジパーキング、P&R駐車場
- レンタカー、カーシェア
- 自転車、レンタサイクル
- 自動運転、新たなモビリティ

■ ウォーカブル機能

- 高速船乗降場から中心市街地を結ぶ歩行者デッキ
- 歩行者空間
- 公共空間（広場等）

■ 集客施設機能

- 名護湾・夕陽を望む視点場
- 物販・飲食機能（漁業振興施設を含む）
- 情報発信機能
- 民間収益機能

■ 防災機能

- 一時避難場所
- 防災備蓄倉庫
- 防災広場
- 再エネ・非常用電源
- 防災情報、Wi-Fi



6. 名護市総合交通ターミナル実現化に向けた各種調査の実施

■ 事例調査

- ・総合交通ターミナル整備の先行事例と中心市街地における歩行者空間整備事例についてデスクトップ調査を実施。
- ・2023年11月6日～9日にかけて、学識経験者、名護市住民及び事務局参加による現地視察を実施。総合交通ターミナル事業推進中の国・自治体担当者や、地域活性化に取り組む民間のプレイヤーに現状や課題を伺った。

視察概要

視察日時	2023年11月6日（月）～11月9日（木）
目的	まちづくりと連携した総合交通ターミナル整備及び中心市街地での活性化による地域課題解決のプロセスにおいて、名護市で適応し得る知見の獲得
視察先 選定方針	名護湾エリアが目指す魅力向上・滞在の促進・市街地の賑わい創出の実現に向け、名護の地域特性と共通点を有する事例において、バスタプロジェクト、中心市街地における取組のそれぞれについて視察先を選定した。
視察先	松山 ・ 総合交通ターミナル整備 ・ 市街地中心部における歩行者空間の創出
	瀬戸田 ・ 地域商社の設立を通じた商店街の活性化
	呉 ・ 総合交通ターミナル整備 ・ まちづくりの核となる施設整備
	広島 ・ 駅再開発事業
	姫路 ・ 駅前広場のトランジットモール化 ・ 大手前通りの再整備
	三宮 ・ 総合交通ターミナル整備

視察から得られた知見・名護市への示唆（概要）

総合交通ターミナル整備

- ・ バス事業者にとってはバスターミナルの移設など影響が大きい事業であるため、**早い段階で頻繁に情報共有し理解を得る**ことが、積極的な参画を促すことになる。
- ・ **収益施設については、事業者が交通ターミナルができることのメリットを説明して理解・協力を得ることが重要。**また、**誘致するテナントは住民や旅行者のニーズを把握した上で決定する。**
- ・ 総合交通ターミナル事業を主導する国土交通省との連携を密にし、**国の最新動向へ対応できる体制を確保する。**
- ・ 交通ターミナル事業の推進方法は一つではない。**地域課題に合わせた検討が必要。**
- ・ バスターミナルを中心に、名護漁港から名護十字路周辺にかけて人の流れを生むような施策を検討する。**1か所だけではなく複数の場所に人が集まることが大事。**
- ・ 現行バスターミナルの移転に伴い、その周辺への影響を考慮した計画を進めること。
- ・ 呉市で平成30年に発生した豪雨災害への対応は、**港を有する街の防災対策**として参考となる。

中心市街地活性化

- ・ 市主導でのまちづくりを進めるにあたり、住民の意見を取り入れ、協力してもらう仕組みが必要。そのためには、現在実施しているワークショップ等をきっかけとして**継続的な住民参画を促進する**。また、**すぐに実施可能な取組をまず実現していくことで、住民の意識を高めていく。**
- ・ 積極的な参画を促すため、**住民や商店主に対し、まちづくりに参画することでのメリットを提示することもある有効。**一緒にまちづくりについて興味を持ってもらう。
- ・ **まちづくりを牽引する人材を地元で育成する。**例えば、地元学生（名桜大、沖縄高専、名護高校、桜中学）のまちづくりへの参画を促し、意識を高める。
- ・ **まちづくりを牽引する人材を外から召集する。**
- ・ 各々の店舗、団体の利益追求ではなく、**地域全体の活性化を目指す。**
- ・ **地元貢献意識のある企業に働きかけて財源的な協力を取り付ける**（企業版ふるさと納税）ことも一つの方法である。
- ・ アーバンデザインセンターのように、**官・民・学が得意分野を活かして事業を推進する。**
- ・ **次世代モビリティなどの導入に向けた社会実験は必須**、参画者を見出す必要がある。

6. 名護市総合交通ターミナル実現化に向けた各種調査の実施

■ 住民ワークショップ

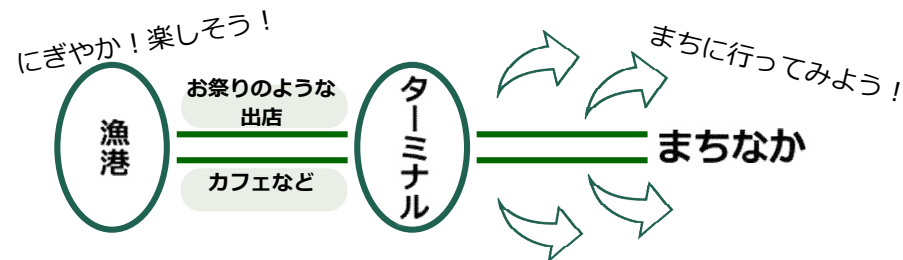
- ・地域のニーズ把握とまちづくり活動への機運を高めることを目的として実施する住民ワークショップは、地元住民グループと名桜大学生で構成された次世代グループに分かれ、全3回実施。最終回は合同開催としそれぞれの意見を共有した。
- ・次世代グループでは、まち歩きのフィールドワークを通して将来イメージの具体化を行った。

住民ワークショップの全体概要と参加者等

	日時	テーマ
第1回 ポテンシャルの再発見	次世代 10/25(水) 11名参加 地元住民 10/26(木) 14名参加	・ 将来に残していきたい・活かしていきたい名護の魅力や資源を掘り起こす ・ 市街地再整備や交通結節点形成をきっかけに“どんなまちにしたいか”を話し合う
第2回 魅力向上のアイデア出し	次世代 11/29(水) 6名参加 地元住民 11/30(木) 18名参加	・ 資源の活用や改善により、エリアを魅力的にするアイデア、ターミナルの機能・施設に求めることを出し合う ・ 行政・企業・住民がそれぞれでできることを話し合う
第3回 将来イメージを描く	次世代G・地元住民Gの合同開催 1/24(水) 22名参加	・ ペルソナ（利用者像）によるエリアでの活動の具体イメージと求められる機能を話し合う ・ 全3回で考えた“こんなまちにしたい”を総括したイメージを文字や絵で表現する

次世代グループ意見概要（10/25・11/29開催）

エリアの将来像



- ・ 市街地に人が行くまちづくり
➡ ターミナル内に何でも作ってしまうと市街地に人が行かない
- ・ にぎやかで楽しいまちづくり
➡ ハコの中にはなく見えるようにつくる、演出する

ターミナルに欲しい機能

『地域の特徴』 名護らしさ、シンボル

『交通』 分かりやすい案内表示、歩きやすい通り

『飲食・物販』 沖縄料理、地元のお土産

『賑わい・交流』 ターミナルを拠点としたイベント

『起業支援』 観光客の誘致や街の賑わいにつながるもの

6. 名護市総合交通ターミナル実現化に向けた各種調査の実施

■ 住民ワークショップ

- ・ 地元住民グループでは、第1回には将来に残していきたいもの・活かしていきたいものの観点から“どんなまちにしたいか”を話し合い、各グループでエリア将来イメージの意見出しを行った。第2回では、参加者を3班に分け、それぞれ「防災・交通」、「飲食・物販・企業支援」、「賑わい・交流・観光・宿泊」のテーマを中心に議論いただいた。

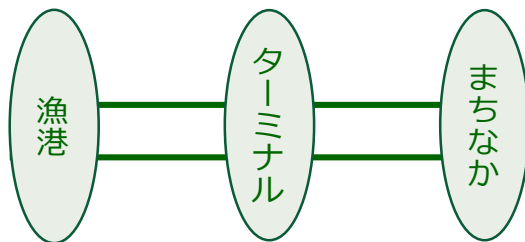
地元住民グループ意見概要（10/26・11/30開催）

A班

「防災」、「交通」

- ・ 災害時の対応拠点として交通ターミナルが機能する
- ・ 災害時の避難が考慮された道路、建物をまちなかに整備することが重要
- ・ 通常時は漁港からまちなかまでストーリーやテーマを持った魅力的な通りを作る
- ・ あまり車を入れずに人が歩くことを中心とする

『“住みたい”・“見たい”・
“よくしたい”』



災害時の対応拠点

B班

「飲食」、「物販」、「企業支援」

- ・ 漁港、観光、コンテンツそれぞれに名護らしさを活かすシンボルが必要
- ・ それらを活かした観光拠点として整備していくことが重要
- ・ ホテルでのチェックイン、駐車場や飲食店の予約など、観光に必要な要素がワンストップで完了するようなシステムが必要

『市民も観光客も楽しめるシンボリックなまち』



C班

「賑わい・交流」、「観光・宿泊」

- ・ 地元住民にとっては働く場、次世代を担う子供たちを大切にするまちづくり
- ・ 観光・来訪客にとってはハブ交通の拠点となるまちづくり
- ・ 従来より名護にあった良いものをリニューアル、規模拡大しながら、次世代へ継承することが必要

『やっぱり名護いいね！！』

元々名護に
あったもの

- ・ リニューアル
- ・ 規模を拡大
- ・ 元に戻す

若者への継承
Return Reborn

6. 名護市総合交通ターミナル実現化に向けた各種調査の実施

■ 住民ワークショップ

- 第3回の住民・次世代両グループによる合同ワークショップでは、利用者像（ペルソナ）による行動を想像することで、多様な立場の利用者の目線で必要なヒト・モノ・コト、まちの望ましい姿を具体的に書き出しイメージを共有した。
- これまで話し合ったエリアの将来イメージから「将来像」と「キャッチフレーズ」を各班（4班構成）でとりまとめた。

合同ワークショップ意見概要（1/24開催）

ペルソナによるエリアでの行動（Bさん：40代男性の場合）

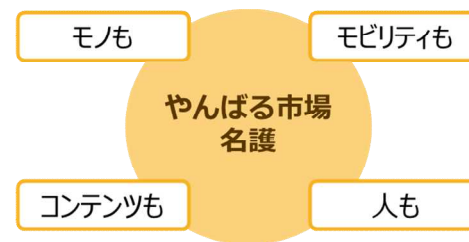


Bさん
男性 40代

- 名護市内在住
- ターミナル内複合施設の飲食店店主
- 40代
- 家族は妻、両親、子ども2人（中高生）の三世家族

行動	ターミナルや市街地での行動	機能・施設・サービス・使われ方など
平日		
起床	家族でお出かけと自身の娯楽	早起きして散歩をするゆとりある生活
出勤	コミュニティバスで出勤 ● コミュニティバス ● 歩車分離式信号	一定エリア内均一料金のコミュニティバスでターミナルへ出勤 高齢者が使いやすいコミュニティバス どんな歩行者でも安全に利用できる道路、横断歩道
配達業務	EV車で配達 ● シェアサイクル ● キックボード ● 自動運転 ● ドローン	業務上の配達は行き先や荷物の量によって交通手段を選択する ドローンでの配達の実現
事務作業	ターミナル複合施設で集中作業 ● 浜焼き ● イカスミ汁 ● パーベキュー ● ランドマーク	快適なシェアオフィスで事務作業がはかどる
昼食	イカスミ汁を堪能 ● 漁港らしい食堂 ● 炉端焼き ● ハマグリ ● 市営市場	豊富な選択肢から立地を生かした昔ながらの漁港食堂を選ぶ 新鮮な魚介類をその場で焼いたり漁港ならではの演出を楽しむ
	イカスミが服に！クリーニングへ ● 多機能ロッカー	クリーニング店と提携している多機能ロッカーへ衣類を預けると 自動で配送され仕上がり品をロッカーで受け取ることができる
WEB会議	来客と打合せ ● 打合せができるスペース ● ヘリコプター ● キッチンカー ● ドローン	ヘリコプターで来客、WEB会議併用で打合せスペースで会議 こだわりのコーヒーを出すキッチンカーからドローンで運んでも らう
夕食準備	市場、漁港で買い物 ● 市営市場 ● 漁港 ● 多機能ロッカー	事前に注文しておく多機能ロッカーに配送され冷蔵・冷凍で 保管。帰りに受け取る
夜の会合	友人来訪 ● 十字路 ● 飲み屋街	居酒屋からみどり街へ、名護の夜を満喫

将来像とキャッチフレーズ案



やっぱり楽しいまち 名護いいね！

若者からお年寄までずっと住めるまち

夕日が見たい ずっと住みたい

飲みたい！ 食べたい！ 残したい！

新時代の楽しいまち
NAGOへGO!!



6. 名護市総合交通ターミナル実現化に向けた各種調査の実施

■ 中学生によるミニワークショップ

- ・桜中学校の1年生40名を対象にミニワークショップを開催。バスターミナルに希望するものの意見出しを実施。
- ・生徒たちからの意見を集約した結果、「物販・飲食」、「アミューズメント」といった、中学生生活を充実させるために欲しいものが列挙されている傾向がある一方で、まちづくりに必要と考えるものとしては実生活に根差したものが挙がった。

桜中学ミニワークショップ意見概要（11/30開催）

中学生が今欲しいもの

物販・飲食

- ・書店
- ・100円ショップ
- ・ドラッグストア
- ・コンビニエンスストア
- ・カフェ など

本や文房具、お菓子の購入ができるお店や休憩できる施設を希望

アミューズメント

- ・映画館
- ・総合アミューズメント施設 など

休日に友達と映画館やアミューズメント施設で遊べることを希望

中学生がまちづくりに必要と考えるもの

生活

- ・郵便局
- ・銀行ATM
- ・ワークスペース
- ・フリースペース など

日常生活で利用する施設や自由に使えるスペースを希望

観光

- ・沖縄の特産品ショップ
- ・沖縄そば専門店
- ・沖縄そば手打ち体験 など

地元の特産品をアピールする場を希望

交通

- ・バスの行き先や遅れを示すディスプレイ（デジタルサイネージ）
- ・待合所
- ・案内板・掲示板 など

デジタル活用によるバスの利便性向上を希望



（桜中学校ミニワークショップ当日の様子）

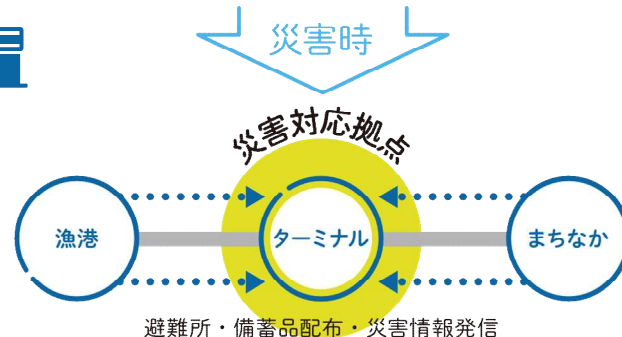
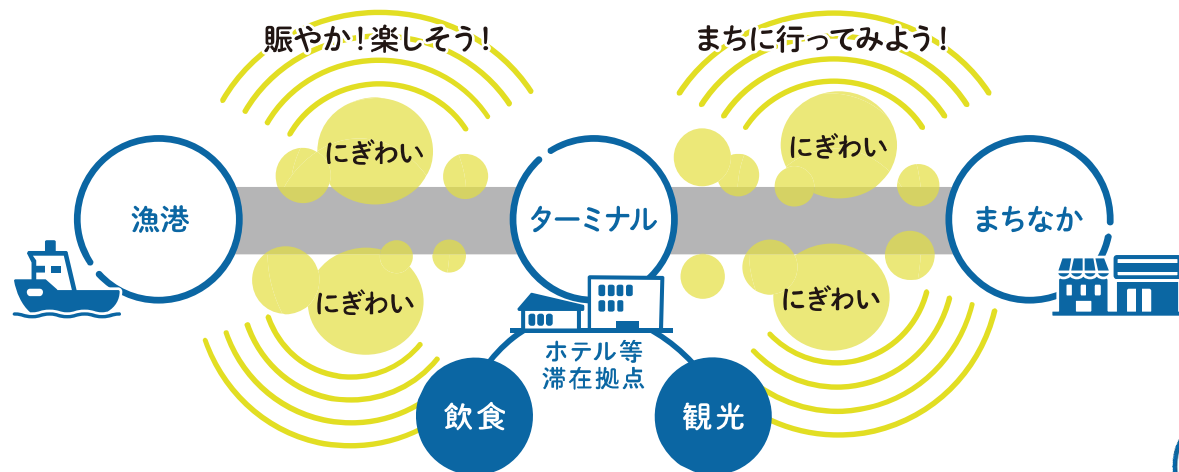
6. 名護市総合交通ターミナル実現化に向けた各種調査の実施

■ワークショップ意見による将来のエリアのイメージ

- 全3回の住民ワークショップと中学生によるミニワークショップを通して、エリアのさまざまな資源をもとに“まちの将来”をイメージしながらターミナルに必要な機能・施設について話し合いを行った結果、ターミナルを新たな拠点として漁港やまちなかににぎわいを広げるイメージが整理された。

住民ワークショップ意見をもとにとりまとめた将来のエリアのイメージ

■将来のエリアのイメージ



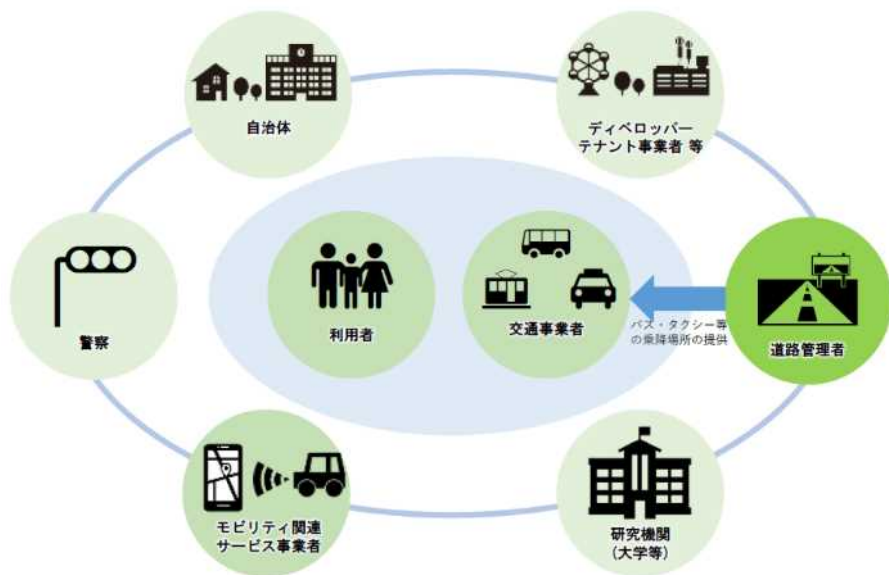
■将来“こうあったらいいな”のキーワード



7. 今後に向けて

- 今後、本計画で示した総合交通ターミナルの整備の方向性やまちづくりのあり方を踏まえ、その実現に向けて、国のバスタプロジェクトによる整備に向け、国や道路管理者との協議・調整を行う。地域の関係者、交通事業者、各施設管理者をはじめ、様々な関係主体等との意見交換を引き続き重ねながら、総合交通ターミナル整備の実現に向けて、段階的に検討を深めていく。

交通拠点における主な交通機関



交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン

